

## 教科等における安全教育

## &lt;正しい知識の習得&gt;

保健体育(保健分野)(1年または2年)  
「安全な社会生活」

- 交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わる。交通事故には補償をはじめとした責任が生じること。

## &lt;思考力・判断力・表現力の育成&gt;

- 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。
- 応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。
- 心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うこと。

- 交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価すること。
- 応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用すること。

## 日常的な安全教育

## 「朝の会・帰りの会」等で

## &lt;繰り返し指導&gt;

## &lt;自転車の乗り方&gt;

- 自転車は車の仲間(軽車両)なので、車道の左側を走ること
- 自転車専用通行帯(自転車レーン)内であっても、逆走は不可であること
- 自転車通行可の標識があり、歩道を通行するときは、歩行者を優先し、車道寄りを徐行すること

- 信号機の有無に限らず、交差点では安全確認してから通行し、飛び出しをしないこと
- 暗くなる前に、ライトを点灯すること
- イヤホンで音楽を聴いたり、スマートフォンを操作したりしながら等の「ながら運転」の危険性を理解すること。
- 明るい色の服装やヘルメット着用の効果を知ること。
- 自転車を駐輪する際には、点字ブロックの上には駐輪しないこと

- 「安全な通学を考える～加害者にもならない～」文科省作成 DVD(文科省 HP からダウンロード可)を使いながら、起こりうる危険を予測し、それを回避する行動を考えさせる。

## 定期的な安全教育

## 特別活動・学校行事

## &lt;実践に結びつける&gt;

## &lt;交通安全教室&gt;

- 外部講師やスタントマンによる自転車交通事故の実演(スクエアード・ストレート)等を活用し、ちばサイクルルールを徹底すること
- 車両の特性(内輪差、自動車・二輪車の停止距離、自動車の死角)を知り、安全な乗車の仕方を確認すること

## &lt;自分たちができる交通安全活動&gt;

- 小さい子どもの前で模範となる交通行動を示し、地域での行動規範を安全なものにしていくこと
- 地域の交通安全運動に参加し、下級生に対する指導的な立場を経験すること。
- 小さな子どもの視点、高齢者の視点、障害者の視点、自動車運転者の視点に立って、お互いに配慮すること。

教科等で学習した基礎知識を基に、日常的な安全教育、定期的な安全教育の場で繰り返し学習していくことで、交通安全に対する理解を深め、安全な行動に結びつける。

## 通学路

「交通安全施設等整備事業の推進に関する法律施行令」では、

- (1) 小学校に通うため1日につき、おおむね40人以上通行する道路の区間
- (2) 児童又は幼児が小学校等に通うため通行する道路の区間で、小学校等の敷地の出入り口から1km以内の区域に存し、かつ、児童又は幼児の通行の安全を特に確保する必要があるものとされ、本政令等を参考に、各学校が市町村教育委員会や関係機関の助言を受けながら、通学時の児童生徒の安全確保のために通学路として設定している。



## スクールゾーン

- ・子どもの交通安全を図るために設定された交通安全対策の重点地域。
- ・小学校などを中心に半径約 500m 程度の通学路に設定。地域によっては、小学校だけでなく、幼稚園や保育園が対象となることもある。
- ・スクールゾーンが車両通行止めの場合、指定時間帯に規制区域を走行できるのは、通行許可証を受けた車両と、緊急車両・道路維持作業車両などに限られており、それ以外の通行車両は罰則対象となる。



## 「スクールゾーン」を設置するためには…

スクールゾーンを設置するためには、教育委員会、幼稚園等及び小学校等が主体となって、警察や道路管理者、地域の意向などを確認しながら検討する。

道路沿いに住宅や会社がある場合は、スクールゾーンを設置することによる影響も考慮に入れなければならない。

また、設定したスクールゾーン内で安全対策を検討する場合は、その内容によって管轄の警察署や道路管理者に相談することとなる。



## ゾーン30

生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的として、区域(ゾーン)を定めて最高速度30km毎時の速度規制を実施するとともに、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における速度抑制や、ゾーン内を抜け道として通行する行為の抑制等を図る生活道路対策である。

生活道路が集まった区域に通学路が含まれる場合は、「ゾーン30」を整備することは、通学路の安全対策上も有効であると考えられている。



## 「ゾーン30」を整備するには…

地域の方からの要望を踏まえて、交通量や交通事故の発生状況等をもとに整備の必要性を検討する。また、狭さく等の物理的な安全対策も合わせて検討するため、地域の了承を得ることが必要となる。



### 死角

歩行者からは車の存在を確認できて、ドライバーからは歩行者が見えなくなる死角(見えないゾーン)が存在する。特に、車体の高いトラックやバスなどは、自車の前方を横断している子どもや高齢者などの存在に気づかないまま発進し、ひいてしまう事故が多発している。また、左右の側方の死角にも背の小さな子どもなどが隠れてしまうことがある。



大型車では、前方の死角が大きくなり、目の前の小さな子どもは、かくれてしまいます。



### 内輪差

内輪差とは、車体をカーブさせた時に前輪の軌道と後輪の軌道の間に見える差のことである。特に、車体が大きいトラックなどは、内輪差が乗用車よりも大きくなる。内輪差によって曲がり角の周辺に衝突してしまう事がある。特に、左折時は歩行車等を巻き込む事故が起こりやすい。



### オーバーハングによる振り出し事故にも注意

車輪よりも突き出た部分をオーバーハングと言い、後ろのオーバーハングが長い車両は、交差点において、右折時にオーバーハング部分が歩道側や路側帯にはみ出してしまう可能性がある。

歩行者や自転車等の運転手は、オーバーハングによる振り出し事故にも注意したい。



オーバーハング



## 交差点では待つ位置が重要！

### 横断前は3歩下がった位置で待機する

歩道の縁に立っていると、車の内輪差で巻き込まれたり、右折する大型車の後ろのオーバーハングの振り出しで衝突してしまったりする危険性や、ふらついた自転車や車と接触してしまう可能性があることを指導する。



あぶ じぶん いのち じぶん まも  
どんなところが危ないかな？ 自分の命は自分で守ろう

年 組 氏名 [ ]

☆このあと、どんなことが起こるか話し合ってみよう。

人がいない歩道を、スピードを出して、走っています。



歩道の自転車



たくさんの方が歩いている歩道を、スピードをゆるめず通りぬけようとしています。

信号が青なので、急いで横断歩道を渡ります。



交差点



左右の見通しの悪い交差点で、先を急いで走っています。



小学校

中学校

高校

# 交通安全教育啓発資料の紹介

千葉県 交通安全教育啓発資料

検索

参考資料

## 安全教育啓発用ポスター(交通安全)

子どもが巻き込まれる交通事故や自然災害、さらに不審者による子どもの安全を脅かす事件を防止するため、県教育委員会では、小学生用、中学生用、高校生用の「安全教育啓発用ポスター(交通安全)」を作成し、各校に配付しています。全校種において「止まる・見る・待つ」を基本とした登下校中の「安全な歩行の仕方」、中学生以上には、「自転車乗車時のルール」についての内容を加え、各学校での交通安全の啓発を進めています。

県のHPに、過去に作成したポスターや指導資料を掲載しており、ダウンロードできます。



【小学生用】



【中学生用】



【高校生用】

## 「自転車の安全利用に関する教育用リーフレット」

平成29年4月の「千葉県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」の施行に併せて、「自転車の安全利用に関する教育用リーフレット」を作成し、小学校3年生、中学校1年生を対象に配付しました。

特に小中高生の自転車の交通事故が多いことに鑑み、事故に遭わない、起こさないよう自転車交通安全教育の充実を図ることを目的としています。

授業展開例やワークシート例を県のHPにも掲載しており、ダウンロードできます。



【小学生用】



【中学生用】

